

56
182

醫師の来りまで
(子洲の平富)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

始



醫師の來るまじ

(子供の手當)

内務省衛生局

56-182



大正十一年七月

本冊子は兒童の疾病傷害に對する應急手當
に就き保健衛生調査會委員醫學博士唐澤光
德氏の執筆せるものなり

内務省衛生局

12
ら
寄贈本

大正
11.8.16
寄贈

38184



内務省衛生局

昭和十一年



醫師の来るまで(子供の手当)

目次

吐いた場合 一

一 様子と顔付 二

二 体温と脈と呼吸 三

 体温 三

 脈と呼吸 四

急に熱の出た場合 五

一 夏急に高い熱が出た場合 六

二

蓖麻子油を飲ますこと……………六

灌腸……………七

灌腸についての注意……………八

二 冬急に高い熱が出た場合……………一〇

湿布……………一四

氷嚢と氷枕……………一七

吸入器……………一九

吸入器を使ふ時の注意……………二〇

酸素の吸入……………二〇

急にひきつけ(痙攣)た場合……………二二

哺乳兒殊に牛乳で育てられる哺乳兒が急に下痢を……………二三

起した場合……………二四

外傷、火傷、狂犬、毒蛇に咬まれ又毒蟲などに齧された場合……………二五

子供の外傷……………二五

出血のある時……………二六

高い所から墜ちた時……………二六

脳震盪を起した時……………二六

火傷の時……………二六

狂犬や毒蛇に咬まれた時……………二七

蝸子や蚊、南京虫などに螫された時……………二七

毒茸などを喰ひ又毒藥など飲んだ場合……………二七

耳、鼻、氣管や食道に異物の入つた場合……………二八

耳、鼻、氣管や食道に異物の入った時……………二八

氣管や食道に異物を嘔み込んだ時……………二八

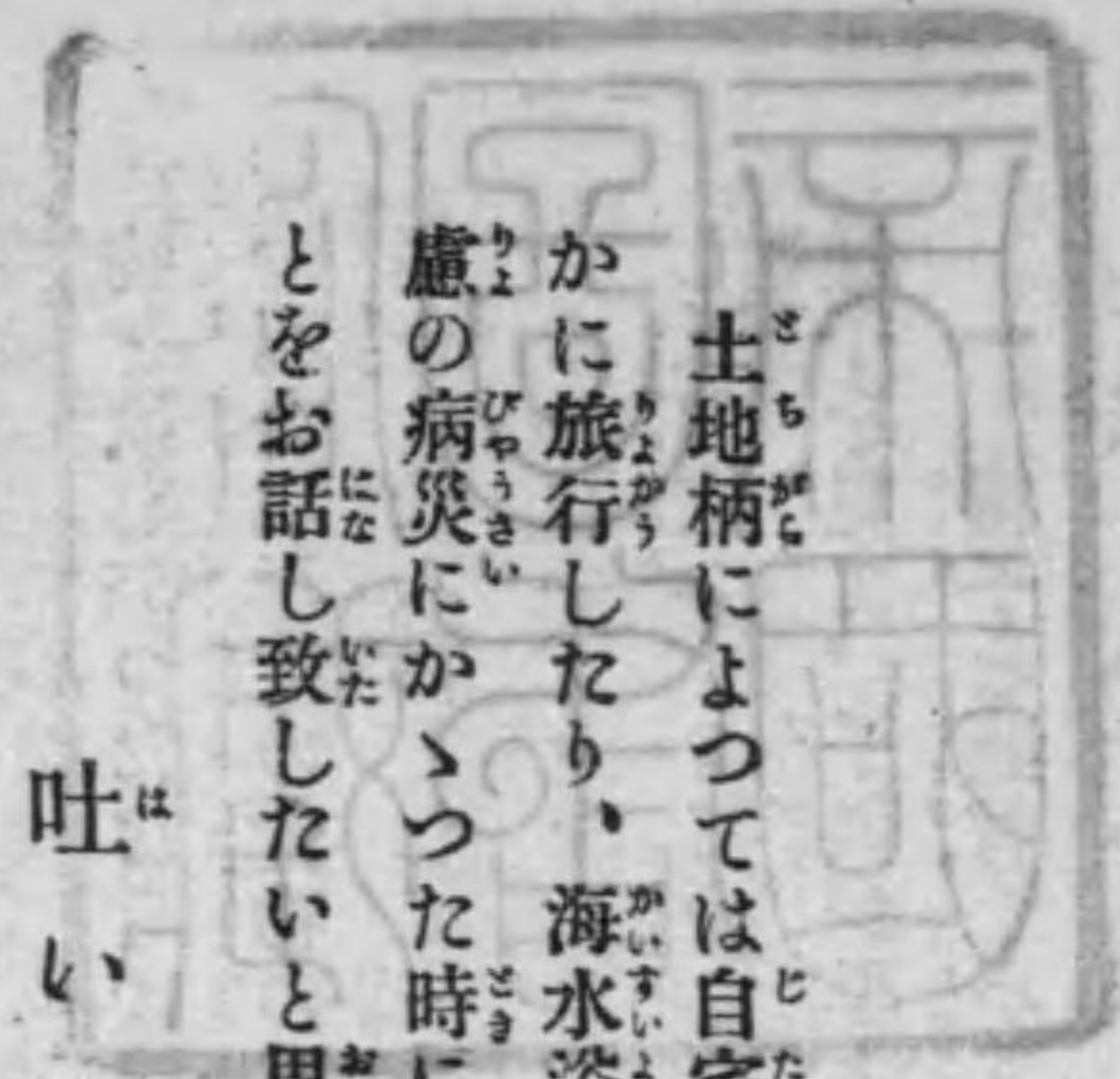
蚊や虫が耳に入った時……………二九

卒倒、氣絶した場合……………二九

救急用品……………二九

醫師の来るまで（子供の手当）

内務省衛生局編纂



土地柄によつては自宅にゐても、急に醫師の間に合はないことが往々あります、又何處かに旅行したり、海水浴場等に行き、或は山間に遊びにでも行つて居られる場合などに不慮の病災にかゝつた時に醫師の来るまでの應急手當として、或程度まで知つて居るべきことをお話し致したいと思ひます。

吐いた場合

小さい子供でも、大きい子供でも、突然に何も食物との關係などなしに吐くことがあります、是は何でもないやうでありますが、吾々から見ますと、子供が吐くといふことはよく重い病氣の初にあることであります。又反對に重い病氣に罹つた子供に就いて吐いたこ

とがあるか何うかを調べますと、その病氣の初には吐いた場合が多い。だから子供が吐いた場合には充分に注意することが必要である。

吐いた場合には、少くとも其の日には二三度體温を計り、又脈、呼吸に氣をつけて置く必要がある。それから、食物を制限して、食氣がなければ無論何もやらすに置く、よくよく物を欲しがつたならば、其の具合によりますけれども、飲料水を與へて置くとか、極く軽い場合は平生の食物の半分を與へて置くといふ風に、減することが必要であります。其の場合に飲み物として一番手軽なのは重曹水が良い。

これは一ブロセント(百倍即ち凡そ五合の水に普通の匙に一二杯の割合)位の割合に溶かし五勺位つくつて少しづつ飲まして置けば良いと思ひます。さうして置いてから、子供の様子を見て、子供が平生と變りがないかどうかといふことを充分に注意致します。

一 様子と顔付 小さい赤ん坊ですと始終周圍に反應して居るやうな、非常に生き生きして居るものである。ところが少し具合がわるいと、子供がぐったりして、無暗に眠がたり、そふでなくとも元氣がなくなり、どこへでも寝轉んでだるそうにごろごろするとい

ふやうな異状を起して来る。大きい子供ならば大きい子供なりに矢張り何となく懶さうにして色々の訴へを起して、自分で口で言つて来るやうになる。それから又顔附にしても、平生良い色をして居た子供が青くなつて來たり、眼がくぼみかけて居るとか、それから良く氣をつけて見ると子供の唇が薄紫色になつて居るといふ風なことがある。脈や呼吸や體温等よりも、寧ろかういふ風な一般の様子の變化をよく觀察して、平生とちがふところがあるかどうかを判断するのが非常に肝要であります。

二 體温と脈と呼吸 體温は日本の流儀では腋下と、股とで計ります。體温を計る檢温器には、一分計といふのもありますけれども、通常體温を計る場合には一分ぐらゐでは駄目で、大抵五分位か、或は太いものになると七八分位かけて置く方が良いのであります。肛門などで計る方法もありますが、日本では餘りはやつて居りません。

體温は通常の子供では朝が三十六度三四分。晩が三十六度七八分位ありますのが普通で朝夕の差は四五分が常である。その差が一度以上に及ぶのは異常のある時なのであります。子供に依ると朝夕の體温が前の標準よりも二三分位高い者もある。さういふのは體質の關

係から起つて居るので、濕疹などの出来易いやうな體質の子供に往々あります。

それから體温を計ります場合は心得て置くべきことは、暴れたり騒いだりした直ぐ後でその子供の體温を計ると、五六分位高いことがある。例へば夏などに子供を集めて十分間位相撲などをやらして、前と後で體温を計つて見ると、子供に依つては一度位高くなる者がある。かう云ふ譯で餘り暴れて直ぐ體温を計ると違ふことがあります、同じわけで、非常に子供が泣いた後に計ると、時に依ると矢張り三分乃至五分高いことがないとも言へません。

それから次に脈と呼吸ですが、是は年齢が少なければ少ないだけ、寢て居るときに計らなければ誤り易い虞がある、子供は前に言つたやうに非常に周圍に反應しやすいものだから、起きて居る時分に之を計ると本當の數を得られない場合が多い。極く神經質な子供になると、今までまるで知らない人が脈でも見るならば三四十多くなる位ですから寢て居るときに計るのが良い。丈夫な子供ですと脈や呼吸の數は一分間に何の位かといふと、年齢に依つて違ひますが大體次の如くであります。

年齢

脈

呼吸

生れた時分

一二〇

四〇—三〇

満一歳頃

一〇〇

三〇

小學校へ行く頃
(即ち七歳頃)

八〇

二五—二〇

十三歳頃

七〇—六六

二〇

まあザツト此の位になつて居ります。

急に熱の出た場合

大人では熱が急に出る場合は急性肺炎か何かの場合と大凡を定つて居りますけれども、子供には今まで丈夫なものが突然三十九度、四十度以上の高い熱を出すといふことがよくあります。まづ子供の救急處置としましては、是が一番大切だらうと思はれます。此場合の處置は夏と冬とで違ひます。

一般に子供の病氣といふものは夏は腹下り即ち消化器病で、冬は風引き、呼吸器の病氣と大抵極まつて居りますから。夏と冬とに分けて述べます。

一 夏急に高い熱が出た場合 夏子供が急に熱が出たからとて必ずしも下痢とはきまりませんが、それでもまづ下痢ではないか、お腹から出た熱ではないかと考へるのが大體に於て間違が無いのでありますから、其の處置をすることが非常に必要です。此場合無論専門の醫師を呼ぶ必要はありますが、それにしても是から述べることだけはやつて置くことが肝要であると存じます。

まづ第一に蓖麻子油を飲ますこと。小さい赤ん坊なら匙の上へ蓖麻子油をあけて飲ませる、赤ん坊の時には鼻が利きませんから黙つて飲んでしまひます。それから少し大きい子供は單舎と混せて飲ませるとか、お茶の上へ浮かせて飲ませる。それからどうしても飲まない子供には鼻を押へて口をあけた時に飲ませるとゴクンと飲んでしまひます。其の分量は一歳までは普通の匙で一匙か二匙。それから二歳から六歳位までは十乃至二十グラムそれから七歳以上の子供は二十から三十グラム位迄のませます。概して割合に分量が多ければ多い程良いやうです。ところが蓖麻子油は油臭い爲に、吐くことがよくありますが大抵の場合は何とか氣をまぎらすやうに相手をして居りますと子供は飲んでしまひます。

第二にはさうして置いてすぐに「リスリン」の灌腸器で腸を灌腸することです。灌腸の分量は「リスリン」を水と半々にしたのを二十グラムか三十グラム位用ゐまして腸内に在る物を出させることに致します。

次に夏子供が高い熱を出したときには水枕を使つて冷やして置きます。かうして醫師の來るのを待つて居る。其の時に醫師が二時間も三時間も來ませんでしたら、又蓖麻子油を飲ませたり、灌腸をくりかへしても良い。又其の時に已によくよく悪い大便が出て來るやうなら、自分で經驗があり自信のある方なれば腸を洗つても良いのでござひます。

さうして小供が熱があります爲に咽が渴いてたまらないやうな場合には、番茶か紅茶、それでなければ湯ざましを飲ませてもよろしい。兎に角急場の處置としてこれだけの事をして醫師の來診を待つが宜いのであります。

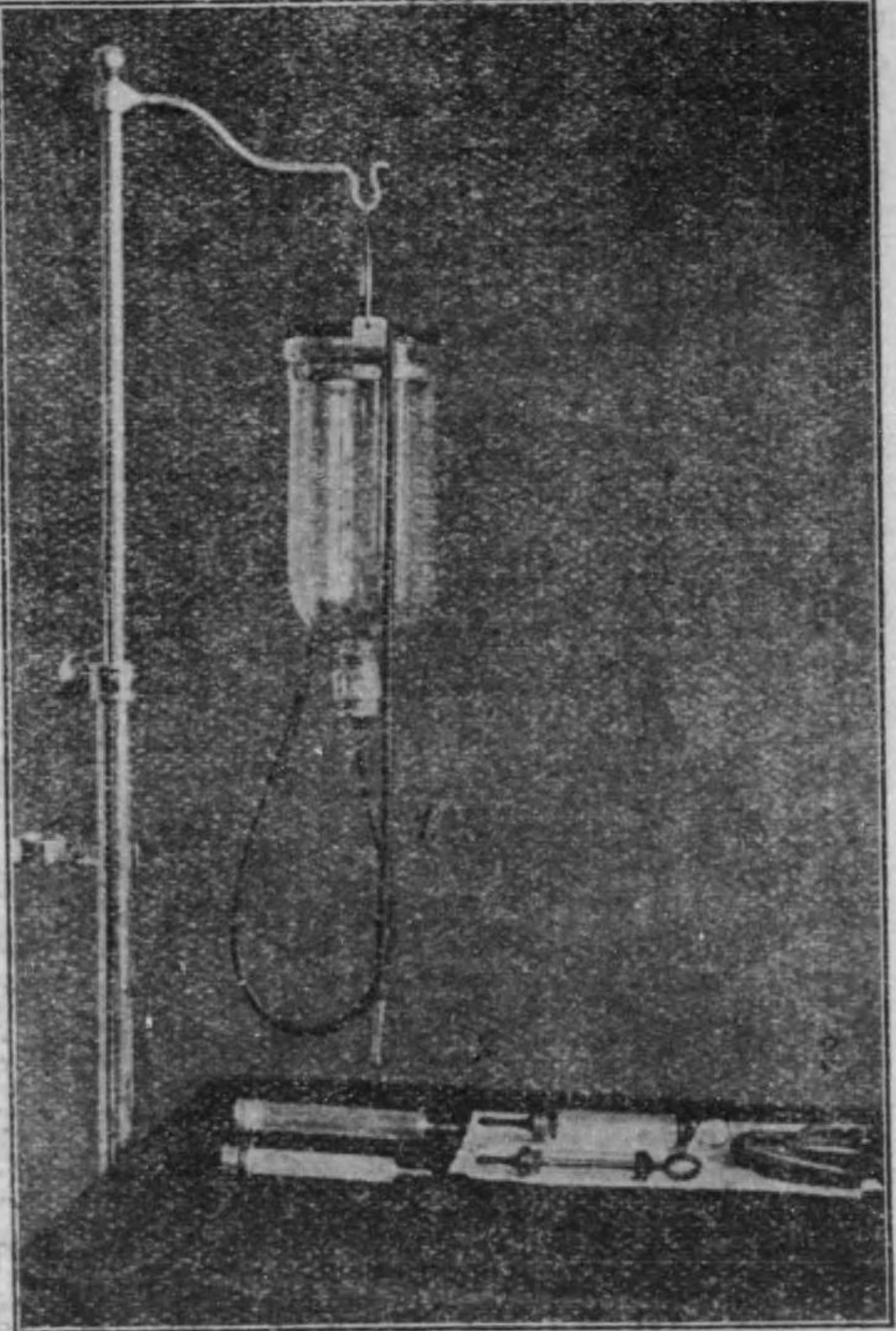
夏に小供が急に高い熱を發しました時に、なせ直ぐ右のやうな手當をする必要があるかといふに、例の怖い疫痢がありますから、此疫痢はひどいになると熱が出たのに氣がつ

いてから二三時間で子供が「ヒキツケ」して、つまり痙攣が起つて來ます。さうするともう薬を飲ませることが出來ず、又下劑を與へることも出來ない、従つて其の原因である腸内の悪いものを除くことが出來ません、だから薬の飲める内に蓖麻子油等を飲まして置く必要があるのであります。

蓖麻子油を子供にのませる場合に子供が已に吐きつゞけて居つて、どうしても油薬を飲まないことがあります、この場合には、よんどころなく甘汞等の散薬を使ふのであります、是は素人方が直ぐ取り計らふわけには參りません。

灌腸についての注意は、硝子で出來てる灌腸器よりも、田舎等へ持つて行く爲には黒ゴムの方がこはれないので良いかも知れません。それから子供が灌腸をいやがつて暴れる時分に、餘り一生懸命になつて肛門の周圍に傷をつけないやうに注意をしなければなりません。

それから腸を洗ふのは、通常腸洗器でやつて居りますが（圖参照）、此中へ生理的食鹽水（水五合に普通の匙一杯程の食鹽を混せて作つた食鹽水）でも、唯の「ぬるま湯」でも入



1. 洗腸器
2. 黒ゴム製並硝子製灌腸器
3. 腸を洗ふゴム管

随分あります。唯だ短い管だけをつかひまして、それも口元だけを入れて、そろ／＼やれば良いと思ひます。通常食鹽水を用ふるのですが、若し食鹽がなければ唯だの生温の湯でやつて宜しい。餘り冷めたいのが入ると、子供が寒氣をしますから、それを防ぐ爲に身體

れて、嘴管の尖へワゼリンを付けて肛門に挿込む。病院などではネラトンの「カテーテル」を付けてやりますが、素人は之を使はない方がよい腸の中が爛れて居る時に、之で洗つて腸を傷つけ、非常な出血の起つた例は今まで

の温度位の少し暖かい方がよいのであります。子供をつれて旅行せねばならないとか或は避暑など出来るやうな方々でも、一々この腸洗滌器を持つて行く譯にも行かないと思ひますから、唯ゴムだけ持つて行つて、若しイルリガートルが無かつたら清潔な土瓶の口へでも之を付けてやるとか、急場の間にあふやうに考へればよいのである。

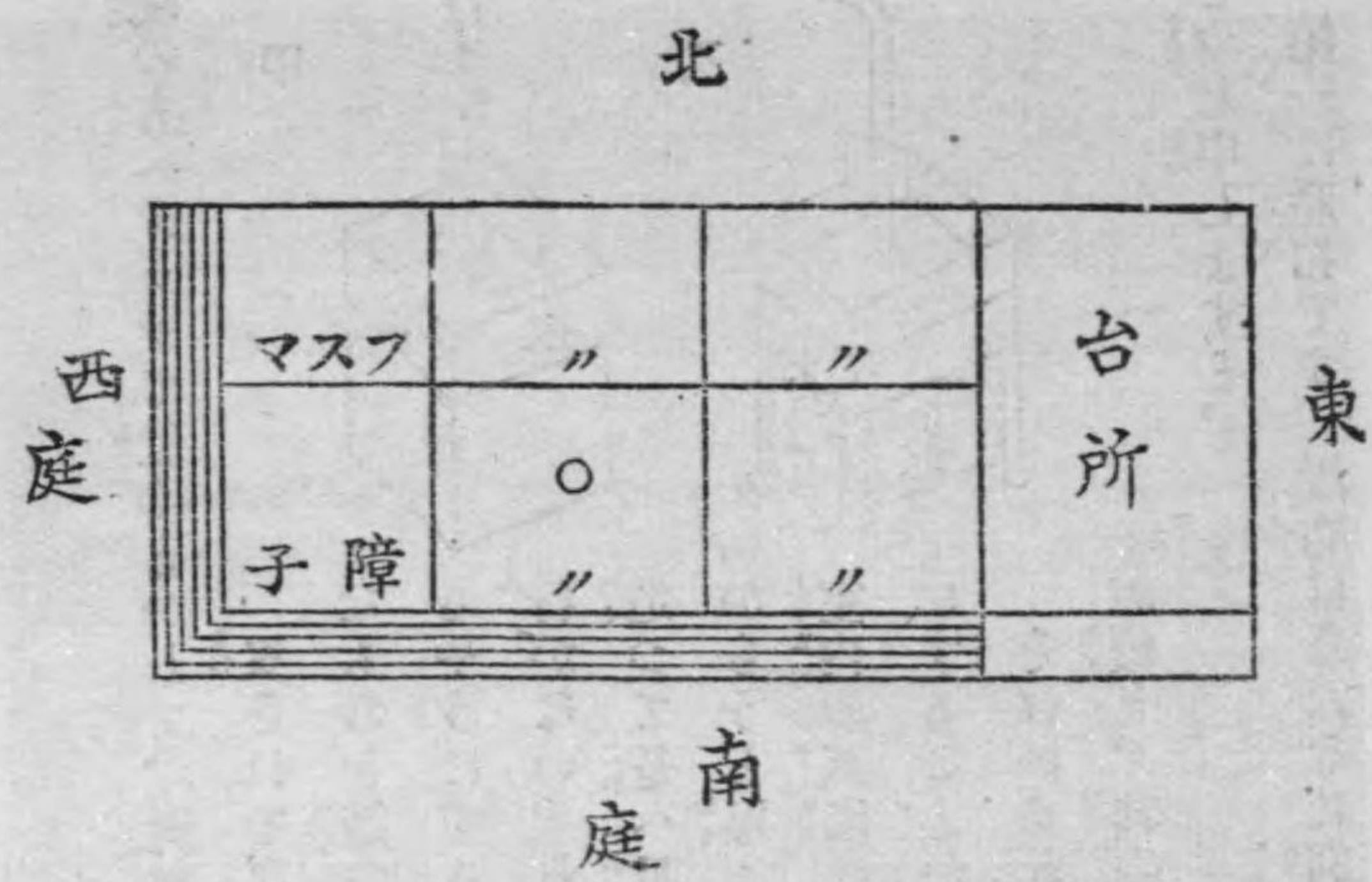
此豫防としては勿論食事に注意すべきは云ふまでもないが、其の他に何かあるかと申しますと、私の考では腹巻が一番良い。腹巻も寝冷知らず位のうすいものよりも、今少し厚いのが良いやうに思ふ。それでモンバカモスリンで中へ綿を入れて女の帯見たやうなものを造り、両方へ紐を付けて之で子供の腹部を二重位巻いてやつて、子供が幾ら夜中に暴れましても、お腹だけは暖かになつて居て冷えないやうにするのが一番良いやうに思ひます。

二 冬急に高い熱が出た場合 冬でも疫病がないとは申せませんが、この時分には主に氣管支炎、肺炎等の方が多いのですから、幾ら熱が出て直ぐ下劑をやらなくても宜からうと思ひます。それでも何か食物に中つたのではないかと思はれる場合には、蓖麻子油の

下劑を飲ませて差支はないのであります。冬は大低見合はして置いてもいいと思ひます、冬子供が突然高い熱を出した場合には先づ子供を寝かしてさうして、其の子供が小さければ小さいだけ、部屋の温度を注意することが必要である。暖かにして隙間から風の来ないやうにしなければなりません。爰で一才日本家の部屋の温度のことを申しますと、日本の子供が、よく風邪を引くのは、部屋が不完全な爲に起ることが多いやうに見受けまます。近年の冬見たやうに悪性感冒の起る場合は別として、部屋の不完全な爲に夜中に風邪を引くことが多い。それは室の周囲から吹き込む風よりも、日本の部屋では下の方から吹き上げる風が一番影響する。西洋風に建て、ある室は板張りでも大抵此缺點がありません。又日本風の家でも少し氣をつけて念入りに床を張つてある家ならば此缺點はないと思ひれますが、貸家普請やお粗末な家はさうは出来て居ない、大抵疊の下の床板と床板との間に五分位、時に依ると一寸位の間があいて居る。晝間の内は戸外も暖かで、それ程でもありませんが、夜になると戸内は火鉢などの爲に暖かくとも、戸外は冷えますから冷たい風が下の疊の隙間などからドンドン入つてまわりますので、子供、殊に幼弱な子供が風

邪にかかると機會が多いやうに思はれます。此缺點をどうして防ぐかと云ふに一番簡單なやり方は、疊を揚げて床板の上に新聞紙を二三重位に敷く、さうして大掃除のときそれを取替へる、それだけでも餘程違ひます。あとのところは何うも仕方がない。障子と柱のすきまや床の間の下などには、新聞紙なり厚紙なりを貼るより外に仕方がないと思ひます。かく致しまして極く嚴寒の時分なら子供を入れて置く部屋の温度に氣を付ける。勿論熱があるからといって其の子供が皆々氣管支カタルとは限りませんが、咳が出る時分には良い部屋を撰ぶ事が肝要であります。それはなるだけ障子の少い間で陽當りの良い部屋が良い。例へば關東邊の中流の家に行くと、藁葺き家根で次の圖のやうな家がある。此場合には何の部屋が子供によいかといふと、此〇のついて居る部屋がよい。角の部屋も、北向の部屋も寒いから、子供の部屋には可けない。即ち子供に良い部屋を選んで、寝かして置く。

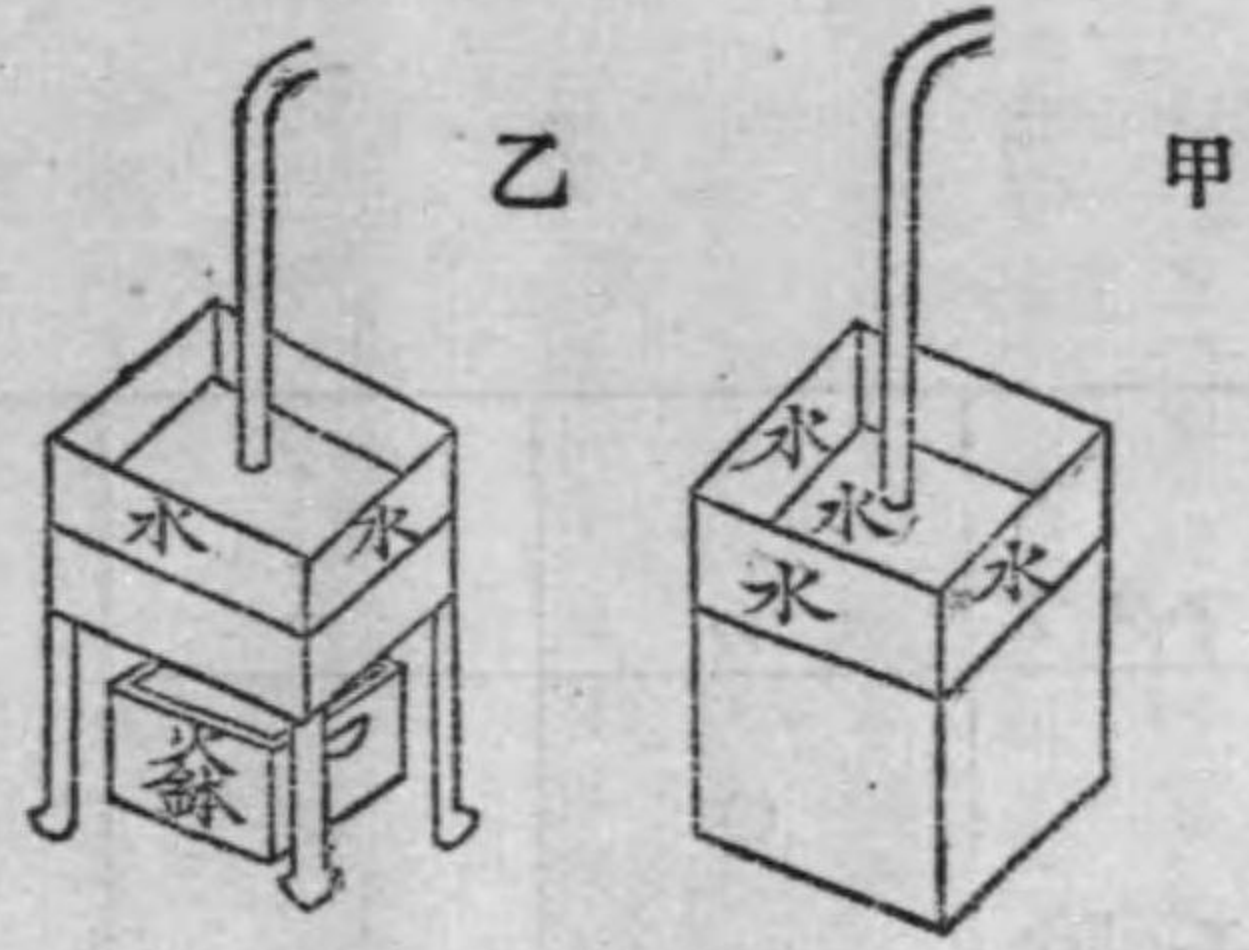
次に子供が氣管支カタルにかゝり咳が出て来た場合には、部屋の温度を保つことが必要である。何もさう高い温度はいりませんが、良い加減の温度にする必要がある。寒い時に



なると東京でも朝晩の温度は四十度位になります。吾々小兒科の醫師として見て居ますと、小さい子供の病氣の起るのは氣温が華氏の五十度以下になります。氣管の病氣が急に多くなり、氣温が八十度以上になると下痢が殖えて来るのから見ましても、五十度以下又は八十度以上の氣候となれば病氣でなくても弱い子供の爲にはかなり氣を付けてやらなければならぬと思ひます。

日本家屋の保温に就きましては普通火鉢を使ふよりはか仕方がない、ところが建て付けの悪い部屋は火鉢から出る炭酸瓦斯は籠らないが、建付けの良い家は本當からいふと、火鉢の上に何か煙突のやうなものをつけるとか、又應急の場合には天井板を一枚

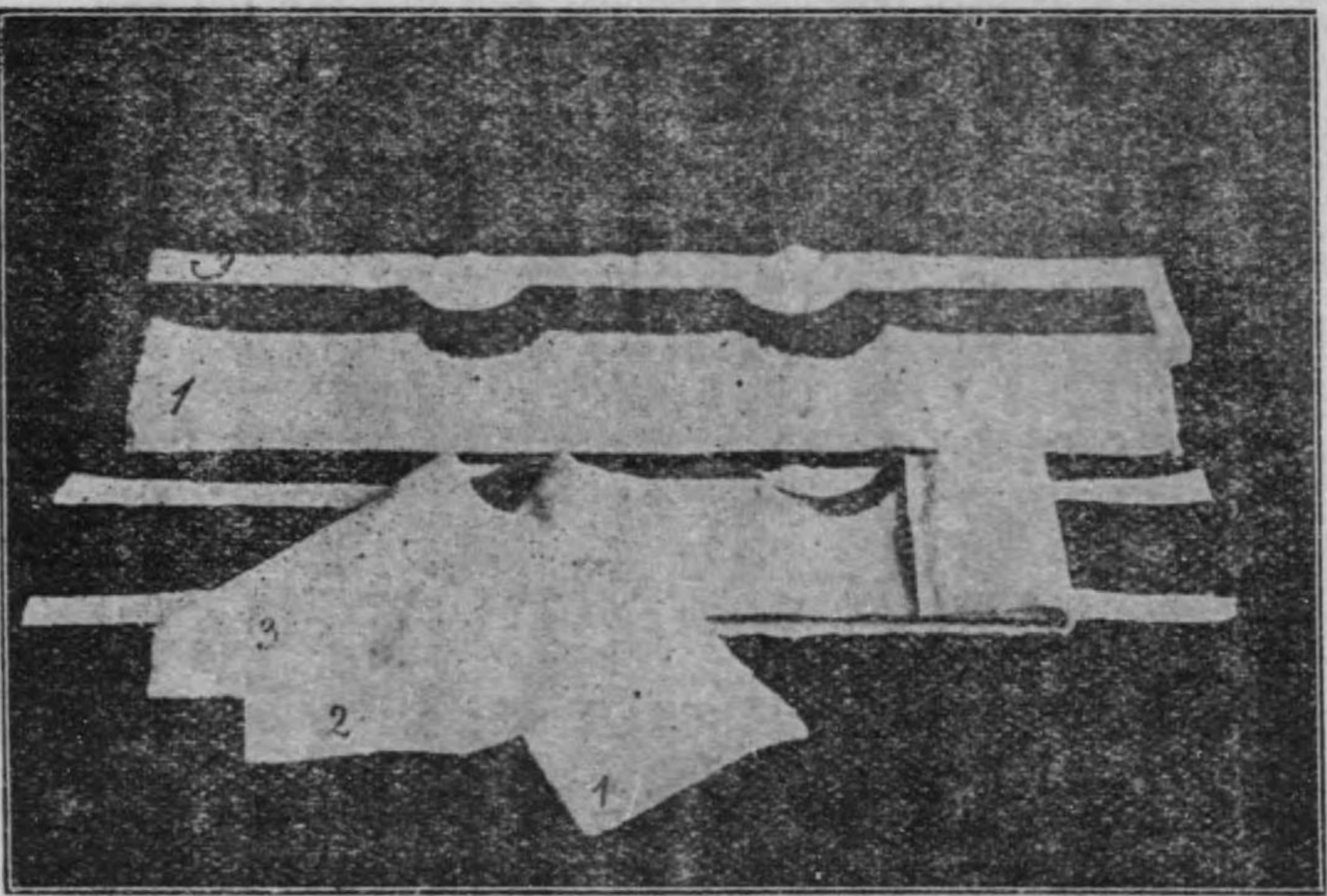
端の方へズラシて置くと加して、炭酸瓦斯を外へ出すやうにすることが必要であります。



又それでなければ上の甲圖のやうに亞鉛が何かでホイロのやうなものを作つて、之を火鉢の上へかける。さうして此上に水が入るやうにすると一層よい。是でも炭を火鉢へつぐのにも甘く行かない。そこで乙圖のやうに、前のものよりも少し大きいのを造つて是へ足を付けて、さうして火鉢を下へ置くやうにしたら宜からうと思ふ。さうして上の方へ水が入るやうにする。かくして室内の氣温を極く寒い時は華氏の五十度、若し出来れば六十度位にすることを冬時幼少子供の爲には適當だと存じます。

それから此場合に救急處置とは少し違ひますが、其の時分に熱が續き、其の子供が氣管支肺炎になつたとして、其の看護のこ

を少し申しますと、
 第一に濕布です。濕布はそんなに利くものでないかも知れませんが、兎に角一般に行は



濕布 1. モンパ 2. 防水布 3. 紐付キ布

れて居ると、氣分が良いから矢張り濕布を使つて居ります。圖の如く下の方へモンパなり或は又タオルでも手拭でも良いが、少し暖かい湯でしぼつて、身體へ巻いて、其上を着物の濕らないやうに防水布か、油紙で巻いて更に其の上をも一つ布で巻くのです。少し大きい子供なら其の上をモンパなりフランネルなりで巻いても良い。濕布の効力は何かといふと、濡れてゐる布で身體を巻きます爲に、身體の中から出る熱が是で遮られる、それで初め生温い湯であつても、それが段々暖かくなつて来る、其爲に局部の皮膚の血液の循環が良くなる。是が暖まると同時に、胸の皮膚も矢張り暖まつて血液の循環

が良くなるのが湿布の目的なので、何も冷めたものを押し付けて熱を取らうといふのが目的ではありません、一番良いのは胸の血液の循環を良くさせるのと、やつて居ると身體全體が暖まつて氣持が良くなる、其の爲にやるのであります。

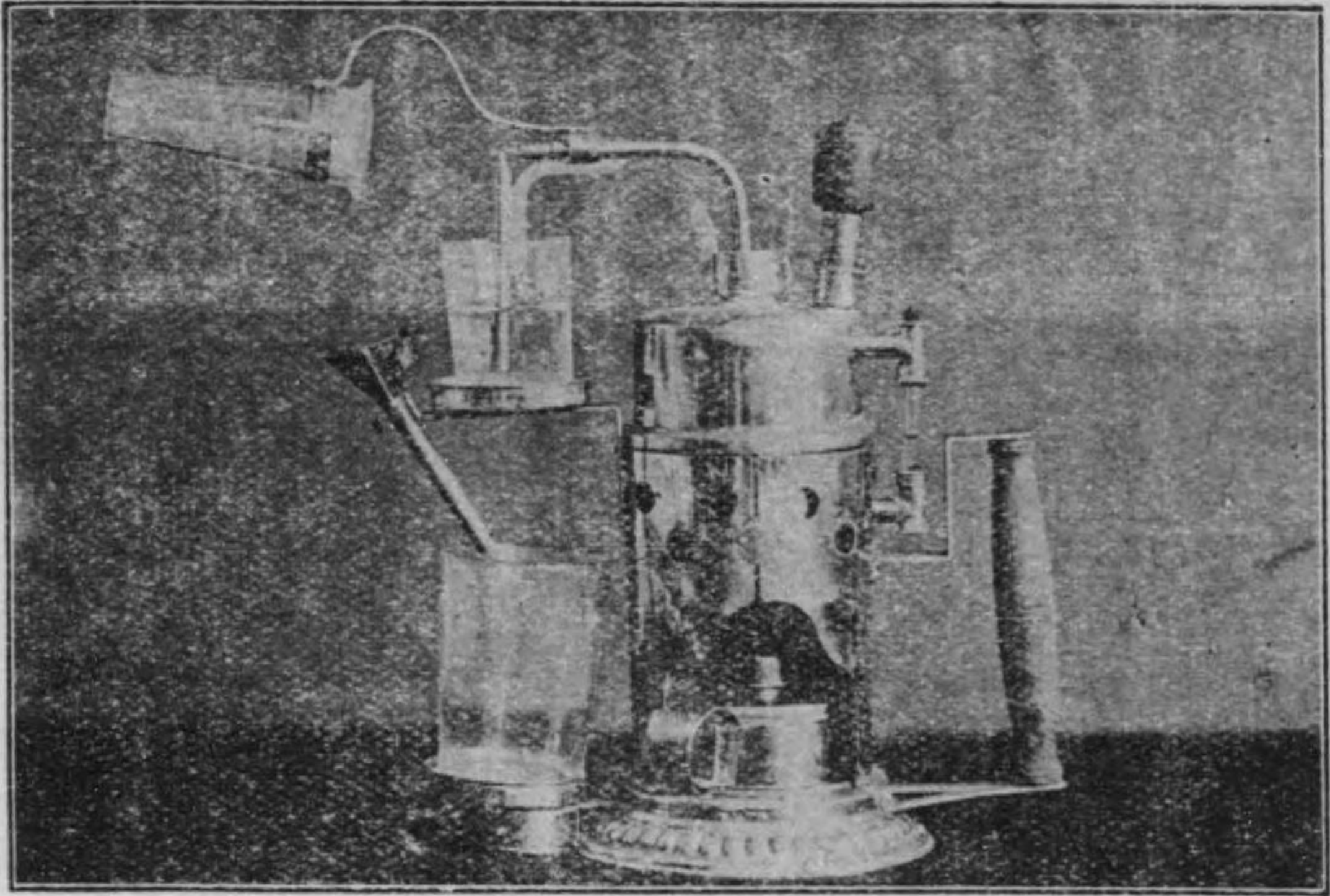
湿布を取替へるには何時間おき位にするかといふと、乾いてから取替へれば良い。二時間とか三時間とかに極めて、冬の夜中に、わざ／＼起してまで取替へる必要はない。それから温度は何の位が良いかと云ふに、何にか目的がなければ少し暖かい湯が良い。良くグラグラ沸騰して居る湯を使つて布をしぼるのに手を眞紅にしてやつて居る方を見受けますが、そんなに熱いのをやる必要はない。だゞ肺炎がひどくなつて、窒息しそうな場合に冷めたい湿布をやりますと赤ん坊が寒いので深呼吸をやる、それで冷めたい湿布をやつた時代もあります、今では酸素吸入などもありますから其の必要もありません。それ故に一般からいふと、生温い湯でやれば良いのであります。

其の湿布に使ふ薬は何を用ゐるかといふのに、先づ水で良いと思ひます、硼酸を使ふこともあるが何でも餘り長く使へば其の皮膚にカブレが出来ないのはい言ふてよい。それだから微温湯で宜からうと思ひます。酒を使つたり、アルコールを使ふ人もありますが、あれは非常に皮膚を刺戟し、一日もやると皮膚が胃されてそこに濕疹が起り易い。又時として非常に爛れて来る。そんなことをやるのが湿布の目的ではありませんから、あれは感心しない。芥子も醫師がやるならば良いが、それさへ少し濫用されて居る傾きがあります。素人は芥子などはやらない方が良い。其の外のものも特別の必要がなければ使はない方がよいのであります。

唯湿布をするには之を取替へるときに乾いたタオルで胸の濡れて居るところを能く拭いて、其の上へ天華粉か、汗知らすなどを附けて、其の上へ又湿布をやる。かうしておきますとカブレの起り方が餘程違ふ、五日で起るところは七日八日にならなければカブレが起らないやうになります。

それから氷嚢と氷枕とであります、熱が出た場合に一般に氷嚢氷枕が非常に使はれて居る。大人などは頭に氷嚢を當て、氷枕をして、其の上、心臓のところにも氷嚢を載せます、それを子供にも其の儘應用して頭にも、心臓にも載せて居る者がある。肺炎と

いふから肺に火事があると思つて、氷を付けて消さうと云ふやうに考へてゐるものがあります。あれは日本の悪い風習で、氷の濫用をやつて居るので、少し熱があると、氷枕に、氷嚢を付ける。大人の場合にはともかく、子供には成るだけ氷を使はない方がよいと思ふ。氷が付いて居ないとゾンザイのやうに思はれるかも知れませんが、獨逸邊りでは食物には氷を使つて居るに拘はらず、病人にはそんなに氷を使はない、殆んど使はない。それ許りでなく、赤ん坊なり、二つや三つ位の子供に餘り氷を使ふと其の爲に榮養と體力を弱めて、癒るべき子供も其の結果亡くなるといふことがありはしないかと思はれる。小さい子供にも此大人並のものを使ふと、子供にとつては大變大きい氷をつけたわけになります。子供が氣持が良いといふ場合には付けても良いが、小さい子供は頭痛が訴へないのだから餘り氷嚢は使はない方がよいと思ふ。氷枕も水枕位にして、なるだけ使はない方がよい。子供には氷嚢もなるだけ小さい方がよい。それも身體が小さいので寒氣が來るから、さうしたら直ぐ取る。之は慣れて居る看護婦でも見定めが出來ないから、せいせい濡れ手拭で冷



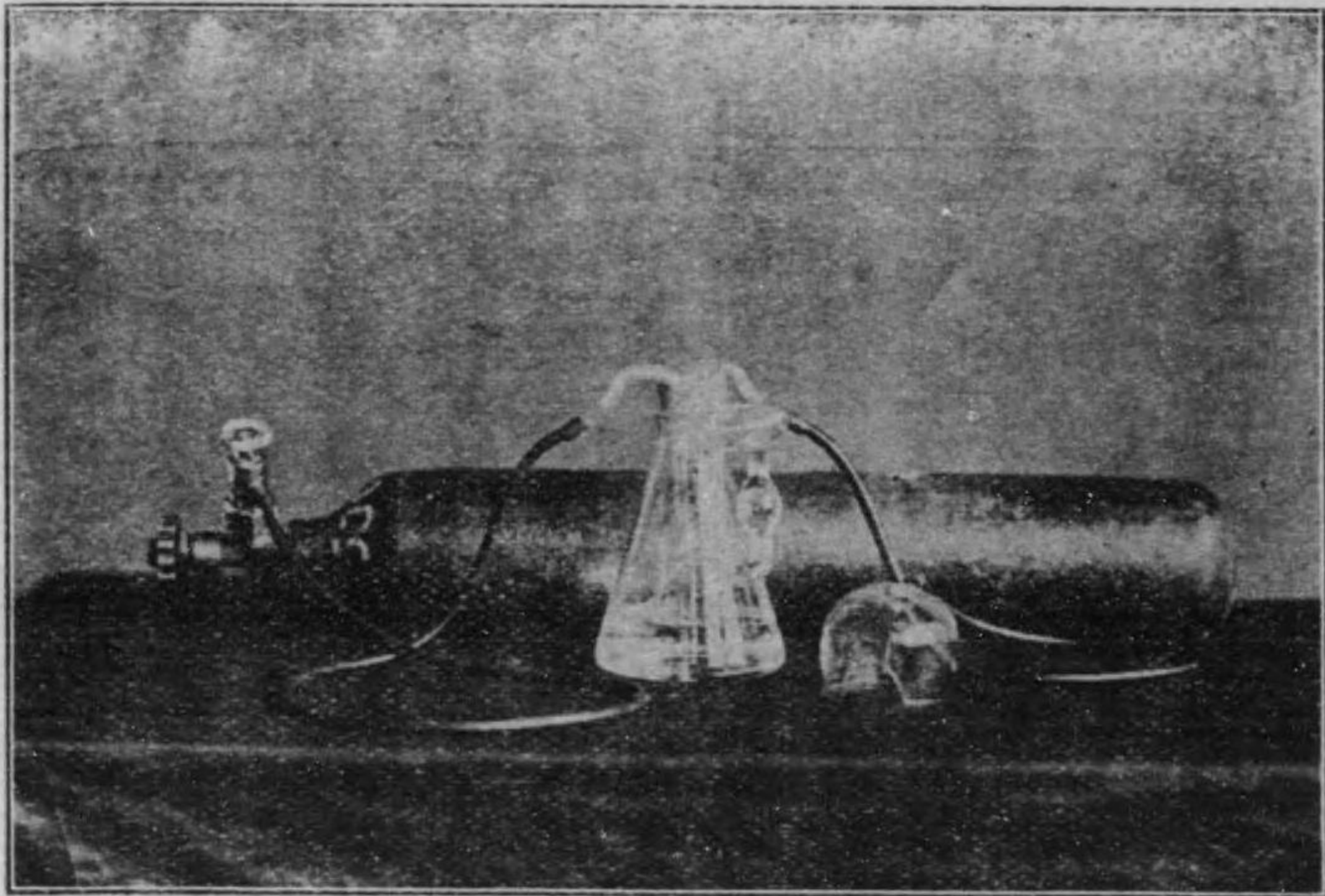
普通の蒸氣吸入器

して置く位が宜しからうと思ひます。吾々はさう思つても據ん所なく、腦膜炎には氷を使はして置くことがありますが、さうでないとは他所の方が見舞に來て、彼處の家では腦膜炎なのに氷も付けてないといふやうなことをいふから、申譯けに一寸付けて置く程度のものであります。吸入器は普通の吸入器で宜しい。實は少し進歩したら之を電氣でやれるやうなのが出来たら良いと思ひますが、未だ價が高くなつて實用に向きませんから、よんどころなく圖のやうなものを使つて居ります。吸入の目的は、理窟から申しますと、第一に暖かい湯氣が咽喉でも悪いとき入つてくると

氣持が良い。それから次に薬によつては痰を溶かす。それからもう一つは、吸入のために咳嗽をする、其の爲に痰が出る。此三つの利益があります。吸入したからといつて吸入の噴霧が肺の一番しまひまで行く譯ではありません、それですから其の薬に特別のものもありません。まづ普通簡單なので重曹か、硼酸を使つて居る。重曹は何ういふ意味かといふと、アルカリ性だから痰を溶し得るやうな性質をもつて居る。それから硼酸は幾分か殺菌に效力があるといふので、兩方とも百倍（凡そ五合の水に普通の匙一二杯の割合）位のもので使つて居ります。又リスリンを入れるのは顔が荒れない爲なのです。併しリスリンを餘り多くすると部屋中ベタベタするから手加減する方が良いでしょう。

吸入器を使う時の注意 としましては急に暖めると口から湯が飛んで子供が火傷することもあり、又アルコールランプをひつくり返して火事を起すことが往々ありますから氣を付けなければなりません。次に餘り重い病人には、却つて呼吸困難になるから、あまりくつ付けずに少し離してやつた方が良いでしょう。

酸素の吸入は、何も經驗のない素人では到底やれませんし、又地方ではサアと云つて間



酸素吸入器

にも合ひません、しかし之は此頃のはやりものであるが、其の割合には利きません。唯だ利くのは極く小さい、満半歳までの赤ん坊の氣管支肺炎の時分です。それだけは確かに利く、先づ醫師の來るまでの手當として酸素を使ふ利益としては、室内を炭火で暖める爲に空氣が濁つて頭痛がする場合即ち炭酸瓦斯其の他悪い瓦斯が出て、其の爲に臭がする場合などに、酸素を使ひますと、室内に酸素が餘計になりますから、健康上工合がよくなります。酸素を時々五分なり十分なりかけて置くと、いゝ加減炭火がありましても頭痛がしませんから、それだけ利益がある。ところが治療の目的にやります時分には、

吸入と同じやうな譯で、酸素を幾らかけましたからといって、肺の中が酸素ばかりになるといふ譯ではない。唯だ幾分か呼吸が困難になつたときは、酸素をやると餘程呼吸困難が緩和されますから、其の目的で使用される、だから餘り強くやつてはいけない。酸素が利くからといってむやみに強くやるべきではありません。あまり強く風が出る位に吸入をさせますと子供が引きつける事が稀れにあります。それで酸素を普通使ふ程度は其の出口に觸れて見て風が當らない位でなければならぬ。特別に醫師が附いて居て或時間だけ強くやるのは良いが、餘計にやることは却つて弊害がありますから注意せねばなりません。

急にひきつけ(痙攣)した場合

是は素人にとつては一番困らされるものであります。この場合は勿論醫師に来てもらふより外に致方ありませんが、夫れまでの處をどうするかといふと、「ひきつけ」が長く續くこともありますが、大抵五分か十分で止まることが多いのです。「ひきつけ」が起つた場合には、取り敢えず子供を寝かして、まづ頭に冷した手拭位を當て、、リズリン灌腸をやる位

が良い、極く軽いのですとリズリン灌腸をやつて大便が出る位で、「ひきつけ」が癒ることがある。それでもいけませんでしたら、尚ほ一遍リズリン灌腸をやるといふ位のこと、子供の様子を見ながら醫師の來るのを待つて居ります。其のリズリンの灌腸をやるのは何故かといふと、子供の腸に刺戟を興へる。其の刺戟に依つて「ひきつけ」がやむといふことがたまにあるからやりますので、昔から使はれて居る「雪の下」を絞つて飲ませる。あれと同じ理窟である。「雪の下」を飲ませるとあれが利くのでない。あれを甜めて見ると實に苦く、又イガラボクつてひどいものです。素人方では「ひきつけ」の場合リズリンの灌腸位以上には出來ませんが、それでも尙醫師が間に合はず呼吸が止まつて色が變つた場合には軽く人工呼吸をやる。小さい子供ですから餘り強くやると肋骨を折るなどの危険がありますし、又折らないまでも他の障害を起すことがありますから、小さい赤ん坊なら胸元のところを軽く平手で押す位で、人工呼吸をやれば良い。餘り強くやると平時なら良いが狼狽するときには、本當にえらいことを仕出來さないと限らないから軽くやるが良い。「ひきつけ」が一時間も、二時間も續く場合には素人では如何ともすることが出來ませ

哺乳兒殊に牛乳で育てられる哺乳兒が

急に下痢を起した場合

この場合は特に注意しなければなりません。夏ごろになると牛乳で育てられてゐる子供がよく死亡することがありますから、夏牛乳で育てて居る子供が下痢したならば直ぐ乳を半分なり三分の一に減らし、若しそれが水瀉下痢であつたならば、今までの乳をまるで止めて葛湯にして、急いで直ぐ醫師にかけつける事が非常に肝要であります。葛湯は百倍か五十倍の割合のものを與へます。五十倍の葛湯と申すと吸ひ管を通る位のものであります。それより外は醫師の指圖を受ける方がよい、一遍か二度位ゆるんだ場合でも牛乳の量を半分位減らす。即ち今まで牛乳二、水一の割合で總量百八十グラムを飲ませてゐたときならば、牛乳一、水二の割合で總量百グラム位を飲まして醫師の指圖を受けるやうにしなければ

ればなりません。この夏時分に牛乳で育てる子供の下痢は急性消化不良といふ病で急に命を失ふことがありますから充分注意しなければなりません。

外傷、火傷、狂犬、毒蛇に咬まれ又毒蟲などに

螫された場合

子供の外傷、是れはえらい怪我をした場合には素人ではどうしようもないので少しも早く醫師に任せなければならぬが、それほどでない場合にはあまり創口には手を觸れない方がよい。創の内に、竹、木片、彈丸などの異物が這入つて居たら、そのまゝにして醫師のもとに行く方が安全で、なまじひに素人がこれらのものを取り出そふとすると大出血を起さないともかぎりません。創の周圍の皮膚に沃度丁幾を塗り、又はアルコホルで拭いて、清潔な「ガーゼ」又は布を當てて繃帯をします。擦り傷位だつたら沸騰した湯をさまして洗ひ、沃度丁幾を塗つておいてもよい。それから挫いた時分には通俗では沃度丁幾を

塗りますが、それよりは十倍位の硼酸水の湿布繃帯をするのがよいのであります。
 外傷をして、出血のある時、小さい出血ならば繃帯を少し強く巻けば止る。又動脈出血と言つて走り出る出血だつたら、創から心臟に近い動脈を指で壓へる。それでも止まらなければ紐などで強く縛へます。この時、締め方が緩いと、反つて出血が多くなるからなるべく強くする。若し餘り強くて、縛へた所から、下の感覚がなくなつて冷たくなつた皮膚が紫色に變つたりしたら一寸緩めて又強く緊めるのです。なるべく出血のある場所を低くしないで高くしておく必要があります。

高い所から墜ちた時、又は強く頭を打つて、脳震盪を起して人事不省にでもなつたならすぐ衣服を緩めて、頭及上半身を高くして臥かし、頭を水で冷して、創や骨折若しくは脱臼の有無を調べて見なければなりません。創があつたら、前に述べたやうな手当をします。骨折、脱臼がある様だつたら最も痛みの少ない位置に子供を置いて、其の負傷した場所は動かさない様にします。

火傷の時はごく軽く皮が赤くなつた位だつたら、ただ新鮮な卵の白身を塗り或は硼酸

の粉を塗つておいてもよい、又冷罨法を度々代へて、其の時に油(最も良いのはオレフ油)を塗つて繃帯をしておきます。火傷の爲に、水泡が出来たら、薄皮を取り去らないで矢張度々冷罨法を更へてやります。若し薄皮が剥げたら、清潔な油を新しい布につけて、繃帯をします。

それから、狂犬や毒蛇に咬まれた時は、直ぐに、創口の上方を強く緊つて、創のまはりを壓して充分出血させる。夫が家の近くの出来事であり、若し持合はせがあれば吸角(すひふくべ)をかけて吸ひ出し、それがなくば水でも良く含嗽した後口で吸ひ出してもよいのです。

蚋子や蚊、南京虫などに螫された時はあまり搔かない様にして痒みどめとして、石炭酸の亞鉛華軟膏又は五十倍位のメントール、アルコールなどをつけます。痒いからとて湿布はしない方がよいのです。

毒茸などを喰ひ又毒藥など飲んだ場合

毒茸にも種々ありますが、毒茸と氣付いたら直ぐに吐かせるがよいのであります。又親の不注意で子供が毒藥などを誤まつて飲むことがあります。毒藥は千差萬別で一樣には言はれないけれども毒だと氣が付いたら、これも大體直ぐに吐かせるがよいと思ひます。それ等は藥で吐かせるよりは口内に深く指を入れて吐出させるのがよい。又其の時に多量の生温い湯を飲まして置き、それから指を入れて吐かせることもあります。其の時腸を洗つたり又は無暗に下劑を用ゐたりなどしない方が安全であります。

耳、鼻、氣管や食道に異物の入つた場合

耳、鼻、氣管や食道に異物の入つた時 は、それが豆の様な又は彈丸の様な丸いものであつたら取り出さうとしてピンセットなどで手を付けてはいけません。反つて益々奥深く入り込む虞れがあります。だから大きいものだつたら、醫師に取つて貰ふのがよいので

す。氣管や食道に異物を嚥み込んだ時 は、暴れさせてはいけない、安靜にして直ぐに醫師の

もとに行かなければなりません。

蚊や虫が耳に入つたら、水かオレフ油かリスリンを靜かに注いで流れ出させるがよい。又虫が尙生きて居つたら暗い所で蠟燭に火を點して耳の近くに持つて行くと、火の方へ虫が出てくることもあります。

卒倒、氣絶した場合

卒倒、氣絶した時 には直ぐに着て居つた着物をゆるめて、空氣のよい所に安臥させます。腦貧血の様な場合で顔が蒼白くなつて居たら頭を下げさせ、又顔が赤かつたら反對に枕をさせて頭を高くし、尙必要があつたら顔面へ冷水を灌ぎます。又飲む事が出来たら葡萄酒又は其の他の酒類でも宜しい、少し薄めて飲まして元氣を出させます。

救急用品

まだ應急手當に必要な事柄が澤山ありますが、この位に致しておきまして、最後に家庭

に、備へておいて便利な又携帯品としても容易な、品物で救急に必要なものをさつと掲げますと次の様になります。此等をも一つの箱にまとめておけば重寶だと存じます。なるべく品物は少ないがよいのです。

- 一、リスリン
- 一、沃度丁幾
- 一、絆創膏
- 一、検温器
- 一、蓖麻子油
- 一、硼酸、硼酸末、硼酸軟膏
- 一、消毒ガーゼ
- 一、腸を洗ふ「ゴム管」
- 一、灌腸器
- 一、消毒綑帶
- 一、ワゼリン
- 一、石炭酸亞鉛華軟膏
- 一、消毒脫脂綿

(終)

大正十一年八月五日印刷
大正十一年八月七日發行

内務省衛生局

印刷者 西 協 嘉 市
東京市京橋區北横町九番地

印刷所 一成社印刷所
東京市京橋區北横町八番地

電話 京橋八一三番
振替東京三一八六〇番

56
182

終

